

企画意図

ネット社会が広がる中、採用選考をめぐる状況も変化しはじめています。企業のサイトからエントリーシートを使ってエントリーする方法が応募の主流となり、インターネット上で採用に関するさまざまな情報交換が盛んに行なわれるようになっています。受験者一人がエントリーする企業の数は増加し、それに対応して企業の採用担当者の業務も多忙になってきています。

公正な採用選考をするためには、受験者の基本的人権を尊重し、適性と能力のみを採用選考の基準にすることが大切です。この作品では、エントリーから筆記試験、面接といった一連の流れの中で、いかにして受験者の基本的人権を守り、企業にとっても受験者にとっても望ましい採用選考のあり方が実現できるかを、ドラマスタイルで提起していきます。

内容

人事室のミーティングで、今年の採用選考のスケジュールが打ち合せられた。まずはエントリーシートによる書類選考をする。千人分を人事部員で手分けして選考し、持ち寄って三百人にまで絞る。

部員の真澄が選考業務をしていると、先輩の嶋崎もやってきてエントリーシートのチェックを始めた。嶋崎は手早く左右にエントリーシートの束を分けている。聞くと男女別に行っているとのこと。真澄は抗議するが嶋崎は曖昧な態度をとる。真澄は釈然としない。続く一時面接で、嶋崎はある受験者に家庭環境についての不適切な質問をする。受験者は戸惑った様子。

真澄が、とある就職活動サイトをインターネットで見ると、その受験者かもしれないと思われる書込みがあり、心を傷めたことが伝わる内容が書かれていた。真澄と上司は、嶋崎に採用選考に対する考え方を改めるように迫る。

嶋崎は、自分の家庭環境に似ていたののでつい思わず、悪気なく聞いてしまったことだったと告白する。嶋崎と真澄と上司が話し合い、人事室として適切なより良い採用選考をするための議論をすることが決まる。そして、筆記試験、最終面接という採用選考の日程が迫る中、受験者との本当の出会いを実現するための新たな一歩を彼らは踏み始めていく。

